

## 第18節 はじめての山のぼり

京都の公立小学校では、修学旅行で伊勢神宮に参ることに決まっている。二見ヶ浦で記念撮影をし、赤福もちをお土産に買って帰る。もうそりゃ100%！

そして、京都のこども初の山のぼりといえは？はい、大文字山であります。

毎年8月16日午後8時に、山に「大」の字が炎となって浮かび上がる光景をご存知だろうか。その大文字送り火が行われる山が大文字山（だいもんじやま）である。標高466メートルの小さい山だ。

幼稚園や保育園でも遠足でトライするところがあり、小学校低学年の遠足の行き先にもなる。それほどお手頃で親しみのある山が大文字だ。

かくいう私だって、こどもの頃何度か登った。初の登山が大文字山だったことは間違いない。しっかりと地形が頭に入っているほどではないが、だいたいあんな感じで登れるだろうという、いささかあやふやながら、自分のこどもを連れて行くには妙に自信のあるコースなのだ。

私たちは、マサミツが2年生になり、リョウとタイが年中さんになったゴールデンウィークに連れて行った。

マサミツは通算2回目の大文字だ。だから楽勝。リョウとタイは？たぶん大丈夫だと判断した。春の旅行で白浜アドベンチャーワールドへ行った時、和歌浦を歩いても歩いても少しグズグズ言うだけで歩ききったあの脚力があれば、OKだ。さすが、毎日1キロ以上の道のりを往復歩いて通園しているだけある。

今日は絶好の登山日和。ちょっと雲があるけれど晴れていて、さわやかな気候である。

昨日、おやつもたんまり買ったし、大きいお弁当箱4つにぎっしりのおにぎりとおかずを見て、ヤル気満々のこどもたちだ。

大文字山に登るには、いろんなルートがある。京都一周トレイル東山コースの一部を歩くこともできるし、南禅寺や琵琶湖疎水の水路閣に寄る道を選ぶこともできる。

多選択肢の中、今回は銀閣寺からスタートするオーソドックスな道を上り、同じ道を下りてくることにする。

小さい子を連れて行くのに、無理は絶対に禁物。ふたごたちが山道にギブアップしたり、万が一のケガで歩けなくなった時にも、おんぶして下山できる整備のゆきとどいたコースなのだ。

マサミツには前日に京都市内の地図を見せて、自宅からのルートを教え、東西南北を教え、コンパスを持たせて出動である。着替えのTシャツやおやつはリュックで持ってくれるので頼もしい。

リョウとタイは銀閣寺までのバスに乗ることさえ楽しい。

銀閣寺参道に連なっている土産物店に目を輝かせ、ちゃんと山に上って下りて来られたらソフトクリームを食べることを確約すると、走り出しそうな勢いである。

このふたごたちはどこまでも食い気に釣られる。このままだと、料理はめっちゃ上手なんだけど金遣いが荒いとか、掃除は全くできないけど中華を作らせたなら天下一品とか、難癖のつく女にひっかかりそうだ。

銀閣寺手前の浄土寺横から急に土の道に変わる。勢いづいて小走りに進むこどもたち。大文字川を右手に見て(見過ぎて落ちないか心配)小さい橋を渡り、ゆるい階段状坂道も、前に人がいないことをいいことに跳ぶように歩く。お願いだからおかあさんが見えないほど離れないで!

私は、追いつけないほど離れてしまったり、こどもたちの注意をこちらに向けさせるするために、笛を首から下げている。ホイッスルなどという上等なものではない。夜店の当て物(あてもん)のカス(はずれ)でももらえるようなプラスチックの安物。ただし、緑色のスケルトン。

実は最近、3人で遊ぶ時に、ひとり(タイの場合が多い)がもうひとり(リョウやお兄ちゃん)にひどい仕打ち(蹴ったり、グーでたたいたり etc.)をすることが多いのだ。止めさせるのに私は大声を出さなければならず、大抵、そういう事態は夕方、私のエネルギーが消耗している時に起こるので、声の代わりに「ピー!!!」と威嚇のために笛をならしているのだ(この話を幼稚園の懇談会の時に言ったら、他のおかあさん方の目が点になった.....ちょっと刺激的?)。

さて、山登りの調子はどう?

マサミツはさすが悠々に上る。幼稚園の遠足で来た時の景色も少々覚えているようだ。リョウとタイはどうだろうかと観察していると、性格の違いが顕著になってきた最近、山道の歩き方にも特徴があると分かった。

タイはひたすらマサミツについて行く。お兄ちゃんを抜かしても歩みを止めない。おとうさんとおかあさんがはるか後ろになっても平気だ。ここで笛をひと吹き「ピー!」。ピタッと止まってこっちを見る。(こどもの数が多いご家庭に笛は必需品ですよ!)

「あんまり早よ行ったら、おかあさんらが見えへんようになるよ!」

「ハーイ!」

形だけ返事するが、また先へ先へ進もうとするタイ。それを制するマサミツ。結構、結構。

上記のふたりに比べてリョウは慎重。山の中らしく葉陰で薄暗くなってくると、私と手をつなぎたがる。遠くに木を切るチェーンソウの音がキーンと響くと、あの音はなに?とすぐに不安にかられる。タイなんて、まるで聞こえていないかのように突き進むだけなのに。

私からすれば、少し後ろを気にしながらしっかり歩くマサミツは頼もしく、先のことを

考えずにありったけのエネルギーで上っていくタイも頼もしく、今の状況を正確にとらえようと、石段の途中で何度も残りの道のりを確認しながら上るリョウも頼もしい。

大文字山登山という同じ状況を与えたことで、同じ親から生まれた兄弟、増してやふたごでも個性があると再確認する機会が与えられた。

千人塚を過ぎ、1度だけお茶休憩をして、階段の続く雑木林を抜けると、大文字山の火床（ひどこ）に到着。

送り火の際、最初に火を入れる箇所は、「大」の字の3画が交わる一点で、その場所は1メートル四方に囲まれた神聖な場所。ここを中心に足下に焼けこげた敷石が規則正しく並び、その光景を視線の下方に入れて京都市街が一望できる。視界いっぱいが景色で、とってもうれしい。

「すごい！」「わぁー！」「京都タワーも見えるう」

ふたごたちは、自らの足でこの高さまで自分を引き上げたのは、初めての経験なので、感嘆の言葉を口にしながら跳び回る。コロコロと下に落ちて行かないか心配。「大」の字の周囲は字の形にあわせて山肌が見えているし、結構急な斜面になっているのだ。

ゆく風が、息のあがった体をぬけていく。気持ちいい。

食い気に走るふたごたちは、ここでお弁当を食べたがったが、まだ早い。おやつラムネとアメでエネルギーを充填したあと、さらに階段を上り頂上をめざす。

火床から頂上までも迷うことのない道。また森の中に入っていく感じ。

車での移動に慣れている子は、これからまだ頂上に向かうなどという、泣き出すかもしれないが、我が家には自家用車がないので、3人には歩くことがごく普通のこととあきらめがついているのか。それにしても、文句を言わずよくついて来るな、と我が子ながら感心させられる。

頂上は、火床から25分もかかったのに、見晴らしは火床に比べて半減以下。おまけに頂上の平らな地面は面積が狭く、腰をおろす場所は他のハイカーが先着していて、どうも落ち着かない。

ここに来て疲れを見せ、小枝で地面に絵を描き始める3人。お茶休憩をしてすぐに同じ道を引き返すことにする。

「さっきの景色のええとこまで戻ってお弁当食べよ！」

いい加減お腹も減っているはず。

「えー！！ここで食べようなァ！！」

ささいな抵抗をしたこどもたちだが、さっきの見晴らしの良さは却下できない。

「大の字のところで食べたら、後でおやつもあげるのになァー」

ここで、我が家ではめずらしいポテトチップスがあることを告げると、身をひるがえして歩き出すこどもたちである。小さいこどもを自在に操るには、必殺技が2、3必要。どんな時にも、どんな場所でもね。

私たちが頂上に向かっている間に、続々と人が山に来ていて、たくさんの方が火床でお弁当を広げていた。今、昼食をとっている人たちは、これから山頂をめざしたり、トレイルコースを向こう側まで抜ける予定の人たちだろうと思われる。

今回、自宅からバス1本で行ける山であるとはいえ、4歳、4歳、7歳を連れてゆくのであるから、こちらにも計画を立てて行動している。私たちとしては、山頂を先に制してから火床へ戻って昼食という計画で、ペース配分も予測通りである。他の人たちよりも3歩ほど先を進んでちょうどいいのだ。

おいしいお弁当の後、案の定ポテチは取り合いの標的となり、たっぷり汗をかいたので、お茶も遠慮なしに飲む。私は、下山中に「おしっこ！」と言われないか不安だったが、飲ませないわけにはいかないし、自分で制限できるほど大きくもないので、適度に「あんまりお茶ばかり飲んだらおしっこ行きたなるえ」と促しておいた。

が、予感が的中し、あと15分くらいで、ごほうびソフトクリームが買えるお店にたどりつけるというのに.....

「おしっこ!!!」

くだり道で、何度も「おしっこ」コールを聞いていたので、もうこれくらいが限界か...と、初立ちションに挑戦させることにした。山すそまで下りてきていたし、登山道とされているところからはずれた場所を選んで、.....した。

待っていた私に向かって走って来る顔!

「おかあさ~ん!トイレとちがうとこでおしっこしたあ!」とニコニコ!

いくら「シーツ!」と制しても無駄。そりゃ、楽しい経験だったでしょ。草むらで人生初の立ちション。

大文字山の神様、ごめんなさい。でも、今回非常事態でした。お許し下さい。まあ、こんな経験も必要かと思います。すみません。

さて、すっきりして、ごほうびソフトクリーム。おいしそうに食べること。

ぐったりする様子もなく、意気揚々と引き揚げていくこどもたち3人。まったく、大きく成長したもんだ。

マサミツは、ゴールデンウィークの宿題の作文で、大文字山に登ったことを書き、タイとリョウは幼稚園の先生に山に登ってソフトクリームを食べたことを報告した。

持っていったバンソウコウもきず薬も必要なかった。たんまり持っていったお弁当とおやつは空っぽになった。よし、よし。

これから、いろんな山にみんなで登るぞ!来年には自分の荷物は自分で持てるかな。おやつ300円までっていうルールで、ひとりで自分の分を買えるようになるのは何年先だろう?お弁当を自分でこしらえてもらうってのは、ただの私の手抜き?

あとは、私の体力勝負。ふたごをお腹に持っていたので骨盤が全開し、産んだ後、今も

朝起きたら骨がパキパキいう私の身体は、これから2乗ずつパワーアップしてゆく子どもたちにいつまでついて行けるのだろうか。ちょっと、不安。

「ボクはクラブの合宿があるから、今度のハイキングには行かへん」と言い出す方が先か？

次はどこへ行こうかな。楽しみ楽しみ。

持って行ったハイキングガイドブックの大文字山のページに、今日の日付と子どもたちの年齢を記した。奥付け見ると、1998年初版である。そうそう、これはまだ私たちの子どもがマサミツ一人で、「いつか行けるといいね」と買ったものだ。

うれし。夢が実現して。

この本、いつか絶対家族全員で走破してみせるぜえ！！

とりあえず55コース分の1、終了。お疲れさま。

コース参照：目的別AG・ビッグフットWESTハイキングプラス日帰り温泉（関西周辺）

編集：山と溪谷社大阪支局

発行所：株式会社山と溪谷社

コース問い合わせ：上記参考書に掲載（1998年2月初版分）

京阪電車：電話075 944 2533

京都市交通局：電話075 822 9167

京都市バス：075 801 2561

京都市産業局観光局観光課（京都一周トレイル）：075 752 0230